２０２２年度　はつしば学園小学校　学校評価

１　教育目標

学園理念〈夢と高い志、挑戦、貢献、そして、未来創造〉
教育理念　自らの能力や個性を生かし、創造的に生きることによって、社会に貢献し世界で活躍する人材を育成する

〇目指す学校像
- 個性を大切にし、将来社会に出て必要とされる様々な力の基礎を育む学校
- 受験に対応できる学力を育み、内部進学から難関国私立中学校まで幅広い進路選択が可能な学校
- 初等教育機関として社会的評価を有する学校

〇育てたい児童像
- 多様な人々との共生と協働の道を探求し、社会で活躍できる子ども
- 社会の変化に柔軟に対応できる素地を持つ子ども
- 人間形成の基盤となる豊かな心を持つ子ども
- 夢を抱き、その実現に向けて取り組もうとする知的エネルギーをもつ子ども

２　中期的目標

1. 幅広い進路選択を可能にする確かな学力の養成
2. 社会の変化に柔軟に対応できる力の素地の養成（主体性、多様性、協働性、学びに向かう力、人間性等）
3. 豊かな心の育成
4. 英語教育の充実
5. はつしばサイエンスの充実・深化
6. 支持基盤の確立
7. 安定した学校運営

３　学校教育の自己診断と学校関係者評価委員会の意見

学校教育自己診断の結果と分析	学校関係者評価委員会からの意見
①　児童募集において定員９０名のところ、出願数１０７名（前年度１０９名）、入学者数８８名(前年度８９名)であった。新型コロナウイルス感染症の影響を受け、制限を設けながらの募集活動であったが前年度とほぼ同数の入学者数を確保することができた。 ②　中学進学においては、内部進学者数２４名(前年度３８名)、内部進学率は２８．９％(前年度４２.２％)であった。外部難関中学校の受験では最難関校の灘に合格者がでた。さらに、大阪星光８名、東大寺４名など、男子校の合格者数が増加した。また近隣で毎年多くの合格者を出している清風南海は１８名の合格者があった。一方で、女子校の四天王寺は２名であった。 ③　保護者アンケートは、年１回(12 月実施)。全３０項目中、肯定的評価８５％以上の項目は３０項目中、２７項目であった。「わが子を入学させて良かった」の設問では９６％（前年度９６％）の肯定的評価を得たおり高い評価を維持している。前年度より評価が上昇している項目は１０項目、下降している項目は１２項目であった。 以下の２項目については、設問内容を変更したため直接比較は難しい。 ※設問内容変更(２項目) (旧)わが子は、悩みや困ったことを担任に相談している。→６７％ (新)学校は、お子様や保護者からの相談に、丁寧に応じている。→９３％ (旧)わが子は、英語の学習(宿題含む)によく取り組んでいる。→６５％ (新)学校は、英語教育を積極的に拡充・推進している。→８３％ ※保護者アンケートについての自己評価は、保護者に配布し公表している。	①委員会の体制 地域代表者（登美丘南校区自治連合会会長）・保護者役員（保護者会会長・副会長）・学識経験者（大阪教育大学教授）・校長・教頭・事務長 ④　委員会の実施日 第１回　２０２２年１２月２１日 第２回　２０２３年3月３０日 ⑤　自己評価の結果に対する評価 ・保護者アンケートの「わが子を入学させて良かった」が９６％であったことは、素直に「はつしば学園小学校がとても良い学校だなあ」と感じている。地元からの入学者が増えてほしい。これからも、地域に愛される学校として、地域と連携した取り組みができればよいと思う。 ・GIGA スクール構想が急速に進んでいるが、自治体によって取組み方の差が顕著になっている。はつしば学園小学校は先端を進んでいるので、これを継続し、子どもたちの未来を見据えた教育活動に大いに期待している。 ・保護者としては、子どもがお世話になり、喜んでいる姿を見て本当に入学させて良かったと思っている。保護者会役員として関わることでより一層学校への理解が深まった。これからも、保護者と学校で協働した事業、子どもたちのために何をすればよいかを共有し活動していきたい。教育方針等はよくわかっているが、目に見えない部分（思いやりや人間力）などの非認知の部分の高まりについて 2023 年度は注視して楽しみたい。

４　本年度の取り組み

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価	次年度に向けての改善策
１ 幅広い進路選択を可能にする確かな学力の養成	(1) 学力推移データ等に基づく現状分析と課題の整理	①到達度テストの学年別現状分析・課題整理とテスト内容の見直し ・改善内容の整理、見直しをした上での実施	①内部進学率及び難関中学校の合格実績の向上	①内部進学率は下降した。一方、難関中学校の合格率は上昇した。最難関の灘中学校をはじめ、男子校は合格者が増加。清風難関受験者の合格者は例年通りだった。	・保護者や児童が安心して受験が迎えられるよう、進路指導を行い、個別懇談会を効果的に実施する ・系列中学校との連携をさらに強め、判定基準を明確にして、進学体制の強化を図る ・通知表の評定(5 段階)を判定資料とした進学体制の確立と整備 ・中学進学について学力向上のためお授業のあり方を再構築する
	(2) 授業内容の改善・充実	②校内の各研修の充実 ・教科研究のもと新任研修を実施、教員の授業力向上を図る	②実施計画通りの校内研の実施(実施回数)	②校内研修(全体)は、全８回行った。全新任教員が予定通り研究授業を行った。	
	(3) 内部中学校と連携した学力検証の仕組みづくり	③内部中学校進学に評定(９教科)を基準とした合否判定を行う。プレテストの受験を促進し内部進学者数増加を図る ・保護者への周知を図る ・通知表の評価(3 段階)を適切な基準の基に評定(5 段階)に変換し通知する(4 年以上)	③保護者への周知 通知表の評価から評定への移行がスムーズにできたか	③1 学期の通知表配布前に保護者に周知ができた。その懇談において丁寧に説明し理解を得た。評定基準を統一し教員間で差が出ないようにした。内部進学を専願希望する者は、全員プレテストを受験した。併願受験の希望者のプレテスト受験者数増加が次の課題。	

2 社会の変化に柔軟に対応できる力の養成	(1) 「グループ・ペア学習」の深化	①学年研、教科研の計画実施	①「グループ・ペア学習」が実践できたか	①コロナの感染状況に応じて、制限はあったが、できる範囲で実践した。校内研修は８回、研究授業は５回実施した。今後、コロナの終息に伴う制限解除に合わせ積極的に取り組むことが重要。	・コロナの影響で実施できなかった「グループ・ペア学習」を復活し、学級作りを行い、授業の質の向上をめざす。 ・iPad を活用した新しいプログラミング教育を構築する。 ・タブレット活用頻度の増加に伴い、環境整備（高速化への対応）が急務。
	(2) 宿泊体験学習（自立心の育成）の充実	②with コロナを踏まえた、宿泊活動の実践、内容改善 ・各学年で実施する宿泊活動の内容を検証し次年度へ繋げる	②学校評価アンケートの満足度が上昇したか	②修学旅行は、３年ぶりに実施（長崎方面）できた。他学年で予定していた夏の宿泊行事はコロナ感染拡大により規模を縮小し行き先も変更する等して１１月に実施した。	
	(3) プログラミング学習の実践	③テクノロジー教育として、本校独自のカリキュラムによる授業実践と研修及び内容検討 ・ＩＣＴ環境の整備 ・授業力向上のための教員研修	③テクノロジー教育の方針に則った授業実践ができたか	③３年～５年まで、ｉPad を活用した授業実践ができた。企業とコラボして、教員研修を定期的に行い、授業力向上に繋げることができた。	
3 豊かな心の育成	(1) あたり前のことをあたり前にする心（思いやり・自主自律・公正公平・勤勉等）の育成	①思いやりの心の育成 ・道徳部会を中心に授業実践と研究、評価のあり方を検討 ・自問清掃の深化と改善（振り返りノートの導入と道徳との連携）	①道徳部会を中心に授業実践や評価等の共有ができたか ・振り返りノートの記入で心の変容をみることができたか	①道徳の授業実践を積み重ね、教科研究を行い、評価のあり方を共有した。自問清掃の振り返りノートは効果があった。今後学校としての取り組み継続を検討。	・道徳の授業実践の積み重ねを継続し、校内研究授業を行い、教員間の共有を図る ・スクールカウンセラーによる教育相談、メンタルサポート会議を継続し、保護者の安心度向上をめざす。 ・いじめの早期発見、早期対応を学校全体の計画目標とする。
	(2). 児童支援体制の整備	②教育相談体制の充実 ・メンタルサポート会議を軸とした教員間の情報共有 ・スクールカウンセラーと連携し、児童中心の学校・保護者との共通理解 ・学校の取組みを保護者へ周知 ・いじめ対策の見直しと改善	②学校評価（保護者）アンケートの満足度上昇 ・教育相談、サポート会議等が計画通りに実施できたか ・学校評価の保護者への公開 ・いじめの早期発見・解決を可能にできたか	②学校評価（保護者）は上昇した。その結果を保護者に公表した。 ・スクールカウンセラーによる保護者・児童との相談は計画的に実施した。「生活アンケート」（月１回）を実施した。メンタルサポート会議を定期的に開催し、児童支援について共有した。いじめ事案について、早期発見、保護者児童への丁寧な対応ができた。	
4 英語教育の充実	(1) 英語教科化を踏まえた指導目標・学習内容の体系化	①英語４技能をバランスよく育成 ・「聞く」「話す」だけでなく、「読む」「書く」活動も適時取り入れ指導の充実を図る。 ・３年生からの英検受験に備え、２年生から計画的に指導を行う。	①英検３級以上の取得者５０名以上（全体の１割） ・学校評価（保護者）アンケートの満足度上昇	①３～５年では英検対策授業を週１回実践できた。学校だけでなく、家庭学習の課題としても取り組んだ。	・「GrapeSEED」による授業は4年で終了。 ・高学年の授業充実のための新教材の取組み充実とその狙いに応じた授業実践並びに教育課程の構築。 ・英検受験対策の強化を目途に、オンライン学習ツールの導入（3 年以上）、合格率向上を目指す ・国際理解教育の実践を目指し、オンライン交流活動を計画し実施する ・学校全体の英語活動イベント等の検討 ・海外英語研修を目的にした旅行の実施計画
	(2) 授業の充実	②授業の充実 ・ネイティブ講師と日本人英語教員との連携による授業の実践充実 ・「GrapeSEED」の教材から新教材「EnglishCode」の移行による英語授業の計画と実施	②授業は充実していたか ・「授業評価アンケート」の満足度上昇 ・新教材の導入はできたか	②保護者アンケートの評価は上昇した。児童の授業アンケートは横ばい。英検受験のための対策授業は効果があったが、レベルの違いによる個別対応が難しかった。授業の充実のため、高学年で新教材「EnglishCode」を採用し、高評価を得た。次年度はさらなる充実をめざす。	
	(3) 上位層を伸ばす仕組み作り	③上位層を伸ばす仕組み作り ・レシテーションコンテストの充実 ・インタークラスの授業は発展的内容を盛り込んで児童の意欲を伸長	③上位層を伸ばす仕組み作り ・個別レベル差に応じた学習は実践できたか ・活動に工夫を加え充実が図れたか	③英検対策については、一定の成果は見られたが、上位級の児童に適した教材がなく、成果は不十分であった。次年度は、オンライン学習システムで対応をめざす。レシテーションコンテストにおいて、全員が取組むようにした結果、意識の高まりが芽生えた。次年度は、さらにモチベーションが上がるよう取り組む。	
	(4) 英語力の検証システムの構築	④英語力の検証システムの構築 ・英検受験のための計画と受験対策 ・英検受験の上位級（3 級以上）取得者の増加（50 名以上、１割以上）	④英検の収得率上昇並びに上位級取得者が増加したか	④全体の英検取得率は横ばいであったが、３級以上の取得者数は上昇、目標を達成した。英検３級以上取得者９１名（全児童の17.8%）。受験対策によって一定の効果は見られた。語彙力の差に対応する個別支援が課題。	

5 はつしばサイエンスの充実・深化	(1)理科に関心を持つ心の育成	①中学受験に対応した学習支援 ・保護者アンケートの上昇 ・理科担当教員の授業力向上 ・「はつしばサイエンス」の見直し ・校内到達度テストの検証、得点力向上	①中学受験に対応した学習支援 ・計画通りに実施できたか ・保護者・児童アンケート８５％以上 ・理科部会を定期的に行うことができたか ・生活科のカリキュラムを見直し理科を意識した授業が行えたか ・到達度テストの得点力向上ができたか	①６年の夏季学習会で、理科担当教員で集中指導を実施した。２学期には、習熟度別授業（１クラス２分割）を行った。 ・保護者・児童アンケートの評価は目標を達成した。保護者９２％、児童８９％ ・理科部会を継続的に実施し、教員の授業力向上に向けた取り組みができた。研究授業(4 年)ができた。コロナで制限を受け、実験については、全て計画通り実施することができなかった。	・夏季学習会の補習は理科部として継続実施。理科の学力向上を目指す ・生活と理科の連携を図り、生活と理科の合同部会を開催する。その上で系統的なカリキュラムの構築を進める。 ・地域との連携も視野に入れた狭山池を活用した授業実践の計画
6 支持基盤の確立	(1)「成人の集い」の継続	①「成人の集い」の実施 ・「成人の集い」の継続開催	①「成人の集い」の実施 ・「成人の集い」参加者人数	①コロナによる制限は受けたが第６回(2022 年 3 月約 80 名)・第７回（2023 年 1 月約 50 名）の成人の集いを開催した。次年度からは、成人の集いを「二十歳の集い」に改め継続して実施予定	・「二十歳の集い」の継続実施(2024 年 1 月頃) ・ホームページの卒業生サイトの効果的運用計画見直し ・ ・保護者と連携した協力体制の強化と再整備
	(2)卒業生との連携強化	②卒業生交流サイトの構築と活用の検討 ・卒業生の進学先並びに進学後の追跡調査	②卒業生との連携強化 ・卒業生交流サイトは構築できたか ・卒業生の進学先並びに追跡調査はできたか	②卒業生のページを構築し、掲載することができた。卒業生の交流サイトは構築できず、持ち越し課題とする。	
	(3)保護者会との連携と支援体制の強化	③保護者会との連携強化の計画実施 ・「おやじの会」の継続並びに連携強化	③保護者会との連携強化 ・「おやじの会」は活動を継続し行ったか	③コロナの影響で保護者会主催の「おやじの会」は実施見送りとなった。	
7 安定した学校運営	(1)募集定員(90 名)の確保 ・訪問地域・訪問幼児教室等の重点化 ・募集行事や外部説明会の参加者数増加 ・広報活動の積極的展開	①重点地域への募集活動強化 ・スクールバスの新コース「和泉府中」開設により入学者増加をめざす ・和泉市周辺の幼児教室や園への訪問強化 ②募集関係行事の充実 ・外部での説明会の内容検討及び校内説明会等への誘導強化 ・校内説明会の内容の工夫と目的の明確化 ・ホームページの有効活用による広宣活動の活性化 ・はつしば学園幼稚園との連携強化	①重点地域への募集活動強化 ・重点地域への募集活動強化ができたか ②募集関係行事の充実 ・園や幼児教室と連携した外部での説明会等が実施できたか ・校内説明会の内容を工夫し、さらに WEB 申込み導入などにより、入学希望者の参加が上昇したか ・はつしば学園幼稚園との連携が計画通りに実施できたか	①和泉府中駅にスクールバスを配車し、入学者増が図れた。拠点となる園、塾との連携強化を図ることができた。 ②コロナによる制限はあったが説明会は予定通り開催できた。個別見学の受け入れが順調に伸び出願につながった。 ・外部施設での説明会は実施できた。参加者数は減少した。また、園や幼児教室に出向いての説明会は効果的であり、出願につながることが多かった。今後も継続していく必要あり。 ・出願者数、受験者数共に、ほぼ前年度同様だった。 ・ホームページのリニューアルが完了し、学校の魅力が効果的に発信できた。保護者アンケートで肯定的評価９２％(前年度８３％)と上昇した。 ・はつしば学園幼稚園との連携事業はほぼ計画通り実施できた。入学希望者は微増した。	・スクールバスの「和泉府中」コースの周知と重点的訪問活動強化 ・ＪＲ阪和線沿線と西区方面の募集活動強化 ・人口増加が見込める地域(堺市北区、大阪市西区・中央区等)への効果的な広報活動を目指す